

だっこするよ

2023年7月



社会福祉法人茂原高師保育園
園長 奥戸 昌子

スマホを置いて 絵本の読み聞かせを

夏本番、玄関の向日葵と朝顔がすくすく生長しています。小さな種にぐんぐん伸びるDNAがこんなに詰まっていたのだと感激です。子ども達の中にもきつと「自分をもっと大きくしたい!」という思いがぎゅっと詰まっていることでしょう。3か月が過ぎて、乳児さんもそれぞれにゆっくりと個性があふれてきています。また、3歳のびのびさん、4歳ぐんぐんさん、5歳どんどんさん達も名前の通りに異年齢での関わりの中で自分と出会い、他者と出会い、やりたいことを見つけて遊んでいます。

さあ、プールや水遊びが始まりました。夏本番です。水を教材にして、五感をフル回転させ、夏しか出来ない体験を楽しんでいきたいと思えます。

毎年、こどものとも社のオンライン研修を園で受講しています。5月は、東北大学加齢医学研究所長 川島隆太先生で、脳科学からの幼児期の脳と心の健康についての講演でした。今、皆様にお伝えしたい内容でしたので共有させていただきます。

「脳は、4つの部分で構成され、特に前頭葉の前頭前野は、心の脳、思考の脳で人間だけが特別に大きく発達する。思考力、行動・感情の制御する（特に抑える働き）、コミュニケーション（他者の気持ちを考える）意欲、集中力などをつかさどる場所で、5歳までに大人の脳と同じくらいに成長します。幼児期の教育や家庭生活では、多様な経験、運動機会を作ることが

脳の発達に大切だそうです。緊急避難基地（公益法人日本小児学会 HP スマホに育児をさせないで参照）について、子ども達が強いストレスを受けたときにリセットさせてくれる心の基地…今、その基地がとても作りにくい時代です。家に居ても親はパソコン、子どもはスマホを見て、それぞれ別々で会話がなく、散歩中も親はスマホを見ているなど子どもが話し掛けようとしても気付かない等、親子で目を見ての対面コミュニケーションの大切さを繰り返し話されました。特に絵本の読み聞かせは、一冊の絵本に向き合って過ごす時間となり、脳波を調べるとそれぞれ共感脳が同期して、同じ場所で脳波がシンクロしていた。双方の脳が育つ。感情や情動に関わる人間たる場所だ。また、子どもが何かをしたときに「上手に出来たね」「それいいね」など言葉で即時フィードバックすると非常に強い親子関係が築かれ、知能検査でも情報処理能力が明らかに違ったそうです。そして、育児ストレスインデックス（PSI）、子どもの行動追跡、新SS知能テスト（子どもの認知発達）を7万人の検査し、54日間の読み聞かせをした後では、親子の愛着関係形成が促進され、親が感じていたストレスも改善され、子どもの緊急避難基地（安全基地）が形成、そして、子どもの語彙力、聴く力、問題行動の減少が見られたそうです。

川島氏は、「読み聞かせから読書習慣へ、そして、スマホ利用時間と家庭学習時間、睡眠時間と学力との関連性、ICT社会、GIGAスクール構想への危険性、スマホやタブレットの長時間利用は、親子共に脳の発達が阻害されるので、スマホも正しい使い方が大事です。脳は何歳からでも復帰します」と健康な脳を育てるには、親子の会話、心と心をつなげていくことだとまとめられました。わらべうたも他者と共感する遊びです。一人ひとりの名前を呼び、目を見て、声を聞いて向き合って遊びたいと思えます。

食事のひとつき、また、お風呂やお布団で子どもと会話をしましょう。発達途上にいる子どもは大人を真似て人間に育ちます。今日の嬉しいかったこと、嫌だったことを共に話しましょう。そして、絵本の読み聞かせタイム、きつと我が子とギュッとつながる実感が生まれること間違いありません。さて、今年もどんどんさん達が話し合い、夏祭りをやることが決定しました。お神輿に、盆踊り、お店屋さん等色々アイデアが出ていました。私は、毎日の体験が、子ども達を人間に育てていると信じ、7月もワイワイガヤガヤと楽しみたいです。写真は、にじのおうち 水遊びの様子